

3. 経営管理体制

当組合は農業者により組織された協同組合であり、組合員の意思を広範に反映するとともに、業務執行を機動的に行うために、経営管理委員会を設置し、経営管理委員が任命する理事が常勤して日常の業務に専念する体制をとっています。

経営管理委員は、組合の業務執行にかかる基本的事項や重要事項を定めるほか、理事の業務執行の監督を行っています。また、信用事業について常勤理事のなかで専任担当を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

4. トピックス

◆菜園塾で新たな担い手の育成を（JA 松阪農業塾「菜園塾」）

JA 松阪は4月16日に西部営農振興センターで、管内の野菜づくり初心者を対象にした農業塾「菜園塾」を開講し、過去最多となる42人の塾生が入塾しました。

塾生の1人は「肥料の名前や育て方を聞くことができてよかったです。これから1年間でどんなものを栽培できるのかとても楽しみにしています」と話していました。

◆読み聞かせで地域に元気を与える活動を目指す（JA 松阪助け合い組織「ほほえみ」読み聞かせ隊「メルヘン」）

JA 松阪助け合い組織「ほほえみ」読み聞かせ隊「メルヘン」は、6月8日、松阪市豊原町のJA本店にて読み聞かせ講習会を開講し、19人が参加しました。同講習は地域の方々に、昔懐かしい話から知識として身につく話などについて読み聞かせを行い、地域の方に喜んでいただける活動ができる技術の習得を目的としています。

参加者の1人は「アクセントを付けたり、前に通るような大きな声を出すなど、普段の話し方とは全然違うので難しかったです。1年間精一杯頑張りたいです」と目を輝かせていました。

◆菌回り良好、良質なシイタケに期待大（JA 松阪乾椎茸部会）

JA 松阪乾椎茸部会は7月14日、松阪市大石町周辺で現在のほだ木の状態を確認する乾椎茸活着研修会を行い、12人が参加しました。森産業株式会社静岡営業所の技師が同行し、7か所のほだ場を巡回して、管理状態や、ほだ場の環境について確認しました。

平井正次部会長は「よりよいほだ木を作るため、部会員で協議するなど、生産者同士で協力し合って質のいいシイタケを出荷出来るように努めていきたいです」と意気込んでいました。

◆ベビーサインで楽しく子育て（ベビーサイン体験教室開催）

JA 松阪は9月19日に本店にて、赤ちゃんが身振り手振りで意思表示をするベビーサインの体験教室を開き、生後6ヶ月から2歳までの親子51組が参加しました。

当日、参加者らは歌いながら手や体を動かし、楽しくベビーサインを体験していました。

参加者の1人は、「1人で悩んでいるより、子どもと会話することでお互い楽しく過ごせるのでとてもいい手段だと思いました」と話していました。

◆松阪産柿出荷スタート（JA 松阪柿生産部会）

JA 松阪柿生産部会は10月16日に松阪市笹川町の笹川選果場で目揃え会を開き、20人が参加しました。病虫害の発生が見られ、秀品は減少しているものの、収量は平年並み。果実も甘く、上質なものが出揃っています。

小森茂生部会長は「今年は長雨の影響で病害防除ができず、苦勞しました。果実は糖度も高く、おいしくできているので、たくさん食べて欲しいです」と意気込んでいました。

◆園児とふれあい、いきいきと（JA 松阪ふれあいの里くしだ）

JA 松阪ふれあいの里くしだは11月2日、1周年記念イベントとして、つくし第二保育園の5歳から6歳の園児たち31人との交流会を行いました。利用者が園児と一緒に輪投げに挑戦し、何点取れたかを園児たちが計算するなど、和気あいあいと楽しんでいました。

利用者は「とても可愛らしく、楽しい」「一緒に遊んでいると自分まで童心に戻る」と、嬉しそうに話をしていました。